



Go West!

佐賀県立唐津西高等学校
学校だより NO.7 R4.07.15

【建学の精神】朝（あした）に希望 タベに感謝

文責 学校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp

唐津西の夏 — “佐賀北の夏” を越える —

ロッテの佐々木朗希投手の完全試合やソフトバンクの東浜巨投手の無安打無失点は凄かった。きっとバックを守っていた野手たちの緊張感はいかばかりか。きっと打球を待つ緊張感は並々ならぬものがあったろう。100球なら100球、全球に神経を研ぎ澄ませたと推察する。

これはどんな練習より身になるはず…。

逆に、もし練習のノックの一球一球を完全試合のつもりで受けたらどうだろう…。

ある野球部の監督が次のように言っていた。

完全試合のつもりでノックを受けると、ジャンピングスローやランニングスローのような腰高で小手先のプレーはしなくなる。ちゃんと足を運んで、球との間合いを詰め、テーブルの上の茶碗に手を伸ばすくらい何気ない感じで捕り、素早く正確なステップで投げるようになる。

さて、間もなく夏休みを迎える。

3年生にとっては受験の夏だ。たくさんの特課、たくさんの演習問題が待っている。

その時に、1時間1時間、1問1問、本番と思って臨み、ミスをしたら、2度と同じミスをしないようにその時点でフォローする。凄まじい緊張感をもって。そうすることで格段に成果が上がるはずだ。派手なパフォーマンスはいらない。緊張感を持った地道な努力が必要だ。

7月9日、本校野球部の夏の高校野球佐賀大会の初戦を観た。相手は早稲田佐賀。NHK杯地区予選で大敗を喫したチームである。

結果は7-1で勝利。試合前のシートノックから気持ちが入っていた。しっかり声を出し、監督がボールを出すテンポよろしく、選手一人一人が堅実にボールを捌いていた。（写真は早稲田佐賀に勝利し校歌を歌う選手たち）



そういえば、佐賀北高校が全国制覇をした夏（平成19年）、開幕戦で登場し、決勝で広陵高校（広島）に勝利するまで、引き分け再試合を含め7試合、一戦一戦上手になっていった。それは見るものにもいい印象を与えてくれた。その軌跡は『佐賀北の夏』（中村計著 集英社文庫）という本にもなった。

“唐津西の夏”。野球部は今日、佐賀商業高校との一戦を迎える。勝敗は別として、きっと一回り大きくなって帰ってきてくれるだろう。それは日焼けのせいだけではないはずだ。

我々も“それぞれの夏”を迎え、1日1日を丁寧にそして誠実に過ごそうではないか。

いい聞き手とは

夏は研究と修養の季節だ。教師の私にとっても、進学指導や人権同和教育など、たくさん

の研修会や会議がある。(写真は6月30日実施の主権者教育講演会)

ある研修会で大学の先生の講義があった。一聴衆として聴講しよう気軽に構えていたら、開始直前に進行役を務める先輩の先生から「講義が終わったら質問をしてほしい」と耳打ちされた。「頼まれた仕事は断らない」がモットー。あたふた返事をして、ほどなく講義開始。



何を質問したらいい質問になるだろうか、、、。そんなことを考えながら90分過ぎる。少しの眠気もなく。

その後の私の質問の中身はさておき、“いい聞き手になる”とは“一つ質問をする”ことだと思う。それも批判的な質問ではなく、話し手が言い足りなかったところを少し後押しするような質問がいい。

だから講義中は相手の話の要点をつかみながら、それをつなぐ部分やその先に予想される部分を想像する。つまり質問をしようという構えで聞くと、おのずとポイント整理しながら聞くことになる。話し手も聞き手もウィン・ウィンだ。

本校でもいろんな講演会を企画している。いい聞き手になる練習の機会がたくさんある。時間の都合もあるので、みんながみんな質問することはできない。けれど、「質問ありませんか」と言われたら勇気を持って手を挙げてほしい。それが話し手に対する最高の謝意である。それには「何を質問してやろうか」と考えながら聴くことが大事だ。

疲れるけど無心でいられる —先達から受け継ぐ西高ボランティア—

期末考査前、生徒会役員が校長室にやってきた。「テストが終わったら地域の清掃活動をやりたい。事前調査したら、植え込みなんか結構空き缶やビニールが落ちている」と言う。

12日(火)と13日(水)の夕刻、2日間にわたり、限られた時間、また暑い中だったが、40名以上の生徒が自主的に参加した。

上級生は知っているかもしれないけど、2年前の卒業生、林田 晶さん(浜玉中出身)が、本校在学時、唐津駅から本校までの通学路を月に2~3回レジ袋を持ってゴミ拾いをしながら登下校した。(2019/08/19 佐賀新聞 右参照)

なんの奇の^き衞^{てら}いもなく、そういうことが自然にできる、そういう仲間を誇りをもって受け入れる。そんな西高の校風が好きだ。

西高のボランティアはみんなのサードスペース、第3の居場所だと思う。学校とも家庭とも異なる第3のフィールド。その舞台は案外身の回りにありそうだ。

下校時ごみ拾い続け4年

唐津西高3年の林田晶さん(唐津西)が、2年前の卒業生として、唐津駅から本校までの通学路を月に2~3回レジ袋を持ってゴミ拾いをしながら登下校した。林田さんは、唐津駅から本校までの通学路を月に2~3回レジ袋を持ってゴミ拾いをしながら登下校した。林田さんは、唐津駅から本校までの通学路を月に2~3回レジ袋を持ってゴミ拾いをしながら登下校した。

「自分が行動するしかない」

林田さんは、唐津駅から本校までの通学路を月に2~3回レジ袋を持ってゴミ拾いをしながら登下校した。林田さんは、唐津駅から本校までの通学路を月に2~3回レジ袋を持ってゴミ拾いをしながら登下校した。

| 【7月後半の主な行事】 | |
|--------------------|----------------------|
| 7月16日(土) チャレンジセミナー | 23日(土) 合同学習会(3年) |
| 19日(火) 三者面談最終日 | 25日(月) マイナビ(2年) |
| 20日(水) 一学期終業式 | 28日(火) スタディサポート |
| 21日(木) 特課開始 | 29日(水) JR九州ジョイントイベント |
| | 31日(日) 虹の松原クリーン作戦 |